

ふじみサラダボール子育て情報

「共に伸び合う」

令和4年10月19日号

板橋富士見幼稚園



みんなと一緒に過ごす楽しさを

幼児期の生活は、小さな「家族」という社会から、児童館など他者と関わることのできる少し大きな社会へと進んでいきます。やがて幼稚園や保育園といった同じ年齢の子どもが集まる社会へと広がっていき、発達に応じて関わる居場所が移り変わっていきます。

子どもは、この時期に遊びを沢山経験して成長すると、知的で優れた能力を発揮するとされています。

生まれてからの6年間は、人間に必要な知的能力・運動能力・内分泌などの発達のスピードが、最も急激です。この著しい発達の時期に、子どもが遊びを中心に生活することで、認知といわれる思考力や判断力が多様になり、思考錯誤したり、思いを巡らせたりと、考える力が多面的になります。この多面的思考が、知的な能力に繋がるのです。

3歳を迎えたら、同じ年ごろの子どもと一緒に遊ぶことが大切になってきます。それは集団生活の中で遊ぶことで、様々な思考を学び、知的発達が促される環境だからです。

たとえば、水たまりを見つけ、じっと水面を見ている子どもがいます。水面に映る青空の雲の動きや自分の顔を見つめたり、水面に浮かぶ自動車の廃油が、七色の虹のように映し出す油膜に気づいたりします。このように道路の小さな水たまりひとつをとっても、様々な気づきの思考側面があります。そのような場面に2・3人が集まると、そこに知恵が集まり、笑いがあり、不思議さの探究心が芽生え知恵づくのです。



それぞれの子どもに気づきの違いはありますが、子ども同士互いが思考し合うことで、更なる多面的思考が広がり知識幅が広がるのです。

【写真：運動会の晴れを願っててるてる坊主を飾りました】